

**「思考の足場」を持ち助け合い協力して
学習を作る子どもを育てる**
—小学校3年・社会「くらしを守る」を手がかりに—

溜池 善裕・渡辺 知世

宇都宮大学共同教育学部教育実践紀要 第10号 別刷

2023年8月31日

「思考の足場」を持ち助け合い協力して 学習を作る子どもを育てる[†]

—小学校3年・社会「くらしを守る」を手がかりに—

溜池 善裕*・渡辺 知世**

宇都宮大学*

小山市立旭小学校**

子どもが疑問を見つけそれを解決する状態は「思考の足場」のある状態である。このような自律的学習を行う子どもたちを捉えるために、毎日書く日記として「お知らせ」を設定した。「お知らせ」は「自分が、おもしろいな不思議だなと思うことを、先生や友だちにお知らせするように書く」という提示を行い、学習や学校生活が自分達のものであり、互いに助け合い協力して学習を作っていくために、日直が授業の司会をして進めるような方法を取ることで、「社会的な見方・考え方」が出来る子どもたちを育てようとした。

キーワード：思考の足場、主体的で対話的な学び、社会的な見方・考え方、矛盾、小学校3年、くらしを守る

1. はじめに

令和4年度前期、宇都宮大学共同教育学部に半年間の内地留学をする機会をいただき、宮崎富士也氏と薄田太一氏の授業実践を分析することを通して、最終的には「子ども中心の授業」即ち現行の学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、具体的にどのように指導を改善していけばよいのかを考えることとなった。

宮崎氏は小学校社会科の創設者である重松鷹泰の直接的な指導⁽¹⁾を通して「その子らしい学び」ができる子を育て、薄田氏はその宮崎氏から指導を受けて、「学習する力」を伸ばし続ける子どもを育て

た⁽²⁾。そしてその子らの学びは、友だちを大切にしながら温かい雰囲気の中で助け合って学習を作り、それをもとにさらに深い自身の学びを作っていくものである。したがって、両氏の実践は、授業の中で「社会的な見方・考え方」を働かせ、友だちと共に「主体的に」学ぶ子どもを育てる指導の在り方そのものであるといえよう。なぜなら両氏の実践には、様々な見方・考え方即ち多様な価値を持った他者と共に、新しい価値を創造する、われわれがまさに生きている社会を前提としており、そのような社会をつくる子どもたちを育てることが含意されているからである。

両氏の実践を考察した結果、次の3つを意識して指導にあたる必要があることが明らかになった。

- ①子ども一人ひとりに「思考の足場」をつくる。
- ②友だちとの温かいつながりの中で学習が発展していくよう子ども相互の関係をつなげる。
- ③子どもを惹き付ける力をもった教材（「人」）と出会わせる。

①の「思考の足場」がある子どもは、自分で疑問をもったり、その疑問をもとに考えたりする、自律的思考を行う。このような思考を行える状態にあることが「思考の足場」のある状態である。けれども

[†] Yoshihiro TAMEIKE*, Tomoyo WATANABE**:
A study on raising children who have
“scaffolding for thought” and cooperate
with each other to learn: 3rd grade in
elementary school, with clues from social
studies "the work of public institutions to
protect people's livelihoods"

Keywords: scaffolding for thought, proactive
and interactive learning, social point of
view, contradiction, 3rd grade elementary
school, keep your life safe

* Utsunomiya University

** Oyama Municipal Asahi Elementary School
(連絡先: tameike@cc.utsunomiya-u.ac.jp)

そのような思考が「社会的」であるためには、子どもたちが②のような「温かいつながり」の中で、独りよがりになったり孤立したりすることなく、友だちによって育まれ、みんなで作る学習（授業）を発展させることが出来なければならない。その際、重要となるのが、③の「子どもを惹き付ける」ような教材としての「人」である。

後期は、自身の学級に戻り、上記の3つを意識して日々の指導にあたることにした。指導を毎日積み重ねていく中で、指導の効果を確かめることができた部分があったが、一方、それが十分に確かめられない部分や、どのように位置付ければよいか分からない部分もあり、これらについて、実践を分析しつつ、以下考察していく。

2. 子ども一人ひとりの「思考の足場」

(1) 毎日の「お知らせ」

「思考の足場」はなければならないものであるが、それが無い子どもには足場をつくる必要がある。しかし、その所在の有無は、普通の授業の発言だけでは、捉えることは出来ない。そこで、子どもたちに、毎日「お知らせ」という日記を書くように働きかけ、日記が子どもたちの生活に根付く中で、日記に表れる「思考の足場」を捉えようとした。

「お知らせ」は、筆者が過去において担任してきた学級でも、必ず取り組ませてきたものである。しかし、これまでの「お知らせ」において筆者は、「思考の足場」を意識することはなく、またそのためか「お知らせ」が子どもたちの生活に根付くこともなかった。生活の中で気づいたことや、面白いことは、単発で書かれることはあっても、自分の疑問から出発する持続的で執拗な書かれ方はされなかったのである。

そこで今回は、「お知らせ」を書かせる目的を今まで以上に明確にするために、子どもたちへの提示の仕方を変えることにした。その提示とは「自分が、おもしろい不思議だなと思うことを、先生や友だちにお知らせするように書く」というものである。この提示によっても、「面白い」と思うものを単発で書く子どもがいることは否めないが、「不思議だな」と思うものを出発点に、自分で考えたり調べたりする「お知らせ」を書く子どもが出てくると考えられるからである。

事実、子どもたちの中から、日頃の生活の中で、

自分自身で「おもしろい」或いは「不思議だな」と思うことを見付けて、毎日「お知らせ」に綴ってくる子どもが現れた。以下は、筆者が後期に復帰した10月3日（月）から数日後の「お知らせ」であるが、そのことを示すものである。

■TY女 10月5日（水）お知らせ

「音楽の練習のリコーダーについて」

みなさんは、小学生につかうリコーダーなんというなまえだと思いませんか。なんと「ソプラノリコーダー」と言います。今日は、たまたまみつけた中学校でつかう「アルトリコーダー」とのちがいについてせつめいしたいなと思います。「アルトリコーダー」は「ソプラノリコーダー」よりとても長くて、そしてなんとゆびをのせるはばも長くなっていました。もしかしたら中学生につかうものだからあうサイズにしてみたのかも思いました、次に、ふいてみましょう。シのばしよにゆびをおいてふいてみました。ソプラノリコーダーの音は、わかりますか。うまく音がでるとやや高い音だと分かります。アルトリコーダーは、ふくとひくい音だと分かりました。でも、しかし、ちがっていることばかりではありません。たとえば、どちらともリコーダーのなかまだったり、どれもがっきだったり、ちがうことばかりではないのです。このようにくらべてみるとおなじみみたい、ちがうみみたいなことを、この二つのがっきでとてもべんきょうになりました。(①)家にもほかにもいろいろなことにくふうなどがまっているかもしれません。(②)アルトリコーダーをふいたとき、新しいがっきにふれたのでとてもわくわくしました。こんなにととてもおもしろいことがしれて、とてもうれしいです。もっとしり、いろいろなことを学びたいと思いました。(③)

■NR男 10月4日（木）お知らせ

「ひっくりかえてしまうおもしろいカブトムシ」

家でかっていた、しんでしまったカブトムシに、おもしろいところがありました。それは1日に1回い上、かならずひっくりかえてしまうことです(④)。りゆうは、カブトムシはつめの力がとてもつよいので、木をのぼるのもおてのもの(⑤)です。それなのになぜ家でかっているカブトムシは、いつもひっくりかえてしまうんだろう、といまでもおもっています(⑥)。おもしろいけれどこまったこ

ともありました。ひっくりかえったらかならずなおしてやらなければいけないのです。あと、エサがよごれないように木でできたエサだいにエサをいれていたの、ちよくせつあたえなくてはいけないのでとてもたいへんでした。いまいるクワガタにもおもしろいところがあるかなと思いました(⑦)。

TY女は、音楽の時間に使っているソプラノリコーダーと家にあったアルトリコーダーとを比べるという学習を自分で作っている(下線部①)。そのことを通して、比べることで新しく分かることがあることに気づき(下線部②)、自分で作った学習に楽しさを感じて、さらに学習をつくらうとしている(下線部③)。

また、NR男は、かつて飼っていたカブトムシに見出される、「1日に1回以上、かならずひっくりかえる」(下線部④)ことと「カブトムシはつめの力が強い」(下線部⑤)ことという、自分が目していた対立し矛盾する事実に「なぜ」を見出し(下線部⑥)、今飼っているクワガタにも、同様の矛盾があるのではないかと考えつつある(下線部⑦)。

自律的な学びに楽しさを感じ、それをやってみたいと思うTY女、そして、カブトムシ同様にクワガタにも矛盾する事実を見付けようとするNR男には、ともに自分の疑問から出発して学習を作り、さらにそれを発展させようとする、「思考の足場」があると考えられる。

(2) 朝の会で行う「お知らせ発表」

「お知らせ」を書かせることと並行して、筆者の実践で過去において行ってきたものが、朝の会での「お知らせ発表」である。筆者は、毎日の「お知らせ」に書いたことも含め、自分がみんなに伝えたいと思った「おもしろいこと」を発表する時間を「お知らせ発表」の時間とした。発表の人数については、1日1人と決めてそれを変えないという固定的なものではなく、全員に話す時間を与える日もあれば、話したいことを予約している子ども数名に発表させる日もあるというように、その日の状況によって柔軟に変えて行った。

今回の実践の「お知らせ」では「思考の足場」のあるものに着目し、それを「お知らせ発表」の時間において子どもたちに提示することを通して、子どもたちに「思考の足場」を感じさせるようにした。「お知らせ発表」を、「思考の足場」のある子どもの在

りようを感じ取る時間としたのである。「お知らせ発表」では、友だちが感じた「おもしろいこと」を聞いて、自分自身が感じる「おもしろいこと」と比較したり、新しい見方に気付いたりするような、子どもが現れた。

(3) 教材への自由なアプローチの保証

学校で作成している年間指導計画に基づいて単元計画を立て、それをどのような場合でも予定通り実施していくと、子どもたちはそのうち学習が自分とは関係のないものと感じるようになってしまう。そこで、単元計画は立てたとしても、子どもたちが教材と出会った際、その教材に対してどのように関わっていこうとするのかを見極めつつ、単元計画に修正を加えながら指導を行うこととした。

教師が子どもの教材への関わり方を捉える場合は、授業中及び上記に記した「お知らせ」や「お知らせ発表」である。なぜなら、「お知らせ」や「お知らせ発表」は、子どもが教材に自由に関わる中で、感じたり考えたりしたことを、表出できる場だからである。そこにはどのような子どもの姿が現れるかを、10月21日の「お知らせ発表」の記録を通して見てみよう。

■10月21日(金)「お知らせ発表」

MS男：僕たちは、防空壕らしきものをA公園で見付けました。鉄の茶色い板があって、180cmの大人が5人か6人くらい入れる大きさでした。

MH男：その防空壕は、家にあるようなものですか、地下にあるようなものと似ていますか。

MS男：下に入るようなものです。

YK女：どんな形ですか。

<MS男と一緒に公園に行ったST男が、黒板に図を描く>

ES女：A公園のどこですか。

MS男：コンビニがある方です。

MH男：それは、かくされているように作られていましたか。

MS男：危ないから、鉄板で下をかくしてあるようになっていました。

KH女：1回、中に入ってみましたか。

MS男：管理人さんに聞いて、いいよと言われたので開けてみました。

OT男：A公園の昔を調べてみたらどうですか。戦

争の時代は97年前だから、A公園の場所が戦争の時にどんなふうに使われていたのかを調べてみたらいいと思います。

この「お知らせ発表」の背景にあるのは、国語「ちいちゃんのかげおくり」である。このやり取りを通して、子どもたちが防空壕に強い興味を示していることが分かり、「お知らせ発表」後、学校のすぐ隣にあるA公園へみんなで行って、MS男の言う「防空壕らしきもの」を実際に確かめた。すると、子どもたちからその場で、次のように様々な、そこで目にした事実からの類推（OT男、ES女、MS男）や疑問（SH女）、これとは別の作りの防空壕の目撃情報（TY女）が出されたのである。

OT男：水を出すパイプのようなものがあるから、飲み水に使っていたと思います。

SH女：どうして公園の南側にあるのか不思議に思います。

ES女：道路の下にこのまま細い道があって、空間があると思います。

MS男：ここから見ると、奥が続いているように見えるんですけど、危ないからうめたんじやないかなと思います。

FY女：TY女さんが防空壕を見たと言っていて、もっと大きいと言っていました。

TY女：私が見たのは、横からトンネルみたいになっていました。

公園で、類推や疑問、そして新しい情報が、次々と出されるのは、防空壕について子どもたちが強い興味関心を持っているということであり、さらに学習を進めたいという構えに、子どもたちがなっていることを示唆する。それを裏付けるように、この日の学習を契機として、物語に出てくるちいちゃんが一人で眠った防空壕は、具体的にどのようなものなのかについて、子どもたちは調べ始めた。次の「お知らせ」がそれを示すものである。

■MS男 11月1日（火）お知らせ
「ぼうくうごう」

ぼくは、今日、お母さんといっしょに、ぼうくうごうのしゅるいを調べました。どうしてしゅるいを調べたかという、ぼうくうごうを作ると言ってい

て、じゃあどういのかんじに作るのかとなるので、しゅるいを調べて、それはどんなものかもあったほうがいいと思ったからです。ぼうくうごうは、2しゅるいあって（中略）…。ぼくは、ぼうくうごうをつくるときに、たてあなしきだと、よく見ないからさ いげんしやすくないけど、よこあなしきだと、しゃめんもあるから分かりやすいから、よこあなしきのぼうが いいと思いました。（⑧）

■KK女 11月9日（水）お知らせ

「ちいちゃんのかげおくりのぼうくうごう」

今日わたしは、ちいちゃんのかげおくりのぼうくうごうの広さや大きさをよそうしてみました（⑨）。わたしは、ぼうくうごうの長さは、こくばんではかるやつではかってもはかれないぐらいだと思います。大きさは、わたしが5人はいるぐらいだと思います。そして、本でぼうくうごうがのって、ランタンや大人が1人で子どもが4人と、うさぎが14わはいって、わたしが思っているより広いのかなと思（⑩）、わたしは、食べものはどうしているのかなと思（⑪）

MS男は、国語「ちいちゃんのかげおくり」で主人公の気持ちを考える際に、防空壕を作って劇をすることになり、そのために公園で「防空壕らしきもの」を見付けたことを発表したり（10月21日（金）「お知らせ発表」参照）、防空壕の種類やその形状を調べたりしていた。そのような学習をした結果、当時の様子を再現するには、「よこあなしき」が分かりやすく良いと考えたのである（下線部⑧）。

KK女は、防空壕の広さや大きさを予想したり（下線部⑨）、本で見たことをもとに、自分が予想していたものより、もっと広いのではないかと予想し直したりしていた（下線部⑩）。そして更に、当時の暮らしを具体的に理解しようと、食べ物はどうしていたのだろうかや疑問を出しているのである（下線部⑪）。

子どもたちは「お知らせ発表」を契機にして、国語「ちいちゃんのかげおくり」という教材に出てくる防空壕に、自由にアプローチし、みんなで作る学習—防空壕を作ってその中に入りちいちゃんの気持ちに迫る—に向け、具体的にそれぞれの学習を作っているのである。最終的に子どもたちは、防空壕の大きさを具体的に調べ、それを段ボールで作って、

実際に国語で「ちいちゃんのかげおくり」の劇をすることを通して、ちいちゃんの気持ちに迫った。

3. 温かい雰囲気の中で子どもが友だちと助け合い つながり合う

(1) 学校生活の中で子ども相互のつながり

学級の雰囲気が温かいものとなるためには、日々の学校生活全体において、そのような雰囲気作りが必要であることは言うまでもない。その雰囲気作りは、子どもが登校してから下校するまでの全時間で行う必要があり、さらには、下校後も友だちのことを意識した生活が続くことによって形成されるものである。既に述べたような、「お知らせ」や「お知らせ発表」そして教材への自由なアプローチの保証は、学校の内外で子どもたちをつなげるものであるが、登校から下校までの学校の時間の中で、さらにそれを支えるのが、日直を中心として学校生活を送る仕組みである。

本学級では、日直が中心となって一日の生活を進めている。そのため、日直は学級全体の動きを見ながら、教室移動や配付物の確認などについて、友だちに声掛けをする必要がある。また、あらかじめ教師と打ち合わせをして、今日の学習の時間割において、それぞれの時間の学習のテーマを決め、授業においてはそのテーマに沿って日直として司会進行を行う。一方、日直でない子どもたちは、日直をしている友だちの動きから日直はどういうふうに分けたいかを学んだり、日直の困っている場合にはそれを助けるのである。このことを通して、子どもたちは日直としての仕事を体得したり、学級全体における自分の役割について考えたりして、友だちとの関係を深めていくのである。実際に日直について書いた「お知らせ」は次のとおりである。

■SHa女 11月14日(月) お知らせ 「日直のふりかえり」

わたしは、今日、日直をして思った事があります。一つ目は、時間の使い方がすごくへただったことです。どうしてかという、休み時間の時にやればよかった事をやらなくて、体育と社会の時間がみじかくてみんなにめいわくをかけたから(12)です。次、こういうことをやらないように休み時間をつぶしてでも次の時間のじゅんぴをしようと思います。二つ目は、上手な日直さんのまねをしようとしてもまね

ができない事です。上手な日直さんは、わたしたちよりも何倍も上手です。同じ学年(同じクラス)なのに何で上手な人とふとくいな人がいるのかふしぎです。上手な日直さんは、何がどうしているのか聞いてみたいです(13)。

SH女の「お知らせ」に見られるように、子どもの中には学級のみならずで過ごす一日が円滑に進むようにしようとする意識がある(下線部12)。また、自分の仕事ぶりや友だちのそれとを比べて、上手に日直の仕事をする友だちから学ぼうとする意識も生まれている(下線部13)。

(2) 「お知らせ」に表れる子ども相互のつながり

2-(1)で述べた「お知らせ」は、子どもの「思考の足場」を捉える場であるが、同時に子ども相互のつながりを捉える場でもある。

初めは、自分自身で見付けた「おもしろいこと」について綴っていた子どもたちであったが、次第に、友だちが見付けた「おもしろいこと」や友だちが授業中や放課後にしていることを意識しながら、「お知らせ」を書く子どもが増えてきた。

■HR女 11月9日(水) お知らせ 「円」

わたしは、算数でならった円を家でもかいてみました。…でも、じっさいに家で円をかいてみると、やっぱりわたしは、UK男さんみたいなきれいな円はかけませんでした(14)。けれど、だんだんかいていくと、小さな円でも大きな円でも、さいしょよりは、上手にかけるようになりました。つぎは、UK男さんの上手な円をみならって書きたいです(15)。

■NR男 11月16日(水) お知らせ 「ST男さんのお知らせ発表のぎもん」

ぼくは今日のお知らせ発表で、ST男さんが、ちきゅうは1700キロで回っていると言っていました。そのことで、聞いてみたいことをお知らせに書きます(16)。まず、それを聞いて調べたいと思ったのは、なぜ、そんなにはやく回っているのにとばないかです。じっさいに聞いてみたいことは、なぜ1700キロで回っているのに、太陽の回りをまわるのに一日かかるか、知っているかです。こんど休み時間にST男さんにきいてみたいと思いました(17)。

■ST男 11月21日(月)お知らせ
「小数」

ぼくは、今日、旭公園で、MS男さんとストップウォッチではかって、さいしょに走った秒より、次走った方がはやくなるようにしようときめて(⑱)、ストップウォッチでさいしょにはかりました。そして、38秒56と書いてありました。そして、小数なら算数で今やっているから、やろうとなったので、小数とは何か調べました(⑲)。小数とは、小数点を使ってあらわす数の事です、と書いてありました。小数点は、1より小さい時がある時に使うそうです。なぜ、小数があるかという、整数よりも小さい数の時に、こまってしまうないように、小数があるそうです。

これらの「お知らせ」の下線部⑱から下線部⑲に見られるように、放課後や休日、子どもたちの意識の中には、友だちの存在や学級みんなで学んでいる学習がある。そして、友だちとのつながりの中で「おもしろいこと」や「不思議なこと」を見付けたり、疑問を解決しようとしたりするようになっているのである。

(3)「ふりかえり」におけるつながり

3-(1)及び(2)から、子ども相互のつながりは、学校生活の中だけでなく、学校の外でも切れることがないようになったことが分かる。では、授業における子どもたちのつながりはどうであろうか。ここでは、授業の終わりに書く「ふりかえり」から子どもたち相互のつながりの様子を見てみる。

以下に示す「ふりかえり」は、国語「ちいちゃんのかげおくり」で幼いちいちゃんが、空襲で母親や兄と死に別れてしまい、最後、一人ぼっちでかけおくりをする時の気持ちを考えた授業のものである。

授業の最初に、TY男が「お知らせ」に書いた自分自身のおじいちゃんとの思い出をみんなで読み、TY男におたずねをして、大切な人を失ってしまった時の気持ちを考えた。そして、授業の後半、防空壕でのちいちゃんの気持ちについて話し合いをし、それについての「ふりかえり」を行ったのである。

■FN男 ふりかえり

ぼくは、今日、心に残ったのは、TY男君のお知らせです。ぼくは、家で読んできましたが、いろいろなおたずねが出て、おじいちゃんがおなくなり

なった後、TY男君は「自分がかわりががんばって生きる」と言って、おじいちゃんの方も自分でがんばると言ったTY男君はすごいと思いました。もし、TY男君とにたようなことがあったら、同じく、ぼくも自分でがんばりたいです。TY男君は、おじいちゃんがおなくなりになっても、ちゃんと学校で勉強しているの、とてもすごいと思いました。(⑳)

■AK男 ふりかえり

今日のこの時間、ちいちゃんが防空壕でねる時と家族に会った時のちいちゃんの気持ちを、TY男君におたずねをしてそれを参考にして考えることが出来ました。どうしてかという、おたずねの答えがみんなの役に立って、みんなの良い学習につながったんじゃないかなと思ったからです。(㉑)ぼくの見解は、ちいちゃんは家族に会った時、うれしかったんじゃないかなと思いました。その理由は、二日間、お兄ちゃんとお母さんに会えなかったから、やっと会えてうれしいんじゃないかなと思ったからです。

FN男は、TY男のすごいところに気付き、それがなぜすごいのかを説明している(下線部㉒)。また、「おたずねの答えがみんなの役に立って、みんなの良い学習につながったんじゃないかな」(下線部㉓)。とAK男が書いていることから分かるように、友だちが発言していることが、学級の学習の中でどのような意味をなしているのかということにも気付くことが出来るようになっているのである。

このような子どもたち相互のつながりは、様々な教科においても見られ、そのようなつながりの中で、互いに助け合いながら学習が展開されていくようになった。

4. 授業実践 3年社会科「くらしを守る」

(1)単元の位置

以上のように、「お知らせ」によって、子どもの「思考の足場」を捉えつつ、足場のある「お知らせ」を、「お知らせ発表」で提示することを通して、子どもたちにも「思考の足場」のある「お知らせ」(学校や生活において自律的に思考しながら作った学習)が浸透するとともに、友だちをつねに意識して学習するようになっていった。また、日直の位置付けによって、学級のみならず学校生活や学習を、

円滑に進めようとする意識も高まって行った。

このような子どもたちを捉えつつ、消防署と警察の仕事や役割について調べることを通して、自分たちの生活を守っている人々の存在に気づき、自分自身がどのように自分達の暮らしを守るか考えるようになることをねらいとして、本単元を設定した。消防や警察について指導要領では、「学習の問題を追究・解決する活動を通して」、「地域の人々と協力して」「火災や事故などの防止に努めていることを理解すること」となっているが、子どもたちが助け合い協力して、問題を追究することが出来るようになっていたからである。

消防署と警察署の見学は、この単元実施前に日程が決まっていたため、見学を単元に位置付けることは困難であった。加えて、この二箇所は、自分達が生活している学区から歩いて行ける距離にはなく、また通学路にあるわけでもないため、自分で調べに行ったり、そこで働く人の姿を日頃見ることが出来ないという制約があった。そこで、学区にある消防団に焦点をあて、自分達の暮らしを守る人々の存在や、消防団が消防署と連携して、暮らしを守っていることに気付かせることにした。あらかじめ自治会長に相談をすると、快く地元の消防団長に連絡をして下さり、子どもたちのために、地域にある消防団の分団のある場所で、消防署の人も一緒に、話をして下さることとなったが、この時は既に単元は開始されていた。

(2) 学習の歩み (単元の展開)

教師は、予め単元計画をもって授業に臨むのであるが、子どもの発言やふりかえりから、その時の子どもの状況を判断し、子どもたちが単元の終わりに最終的なねらいに到達できるよう単元計画を修正しながら授業を進める必要がある。なぜなら、そのような状況判断なしに単元を実施すると、学習と子どもとが乖離し、結果的に十分な学習が出来なくなるからである。それゆえ、実際の単元の流れは、以下の通りであった。

【指導計画 (実際の指導)】

- ①疑問を見付けて、学習計画を立てよう
- ②学校探検をして「暮らしを守る」を見付けよう
- ③見付けた「暮らしを守る」について気付いたことや疑問に思ったことを発表しよう
- ④防火扉の仕組みを確かめよう

- ⑤学校のまわりで見付けた「暮らしを守る」を発表しよう
- ⑥119番を受けたときの仕組みを調べて劇にしよう
- ⑦消防団についての疑問を調べて劇にしよう
- ⑧見学に備えて消防団の人に質問したいことを確認しよう
- ⑨消防団の見学
- ⑩消防団の人に聞いて分かったことをもとに消防団の人の仕事を劇にしよう
- ⑪劇をして消防団の人たちはどんな気持ちかを考えよう

前単元において、子どもたちは積極的に、地域にあるスーパーマーケットを取材し、「インタビューをする」という学習方法の面白さや良さに気づきながら、スーパーマーケットに見出される具体的な事実を明らかにする学習を実施していた。そのため、①ではスーパーにも車椅子が置いてあるのでもらしを守っているのではないかという意見が出された。この時間では、子どもたちが持っている、教科書および地域の社会科資料集、そしてパンフレットを、どのように使えば良いかについても、子どもたちから様々な意見が出された。前単元で子どもたちが突き止めた事実は、それらの資料よりも詳しいものがあつたため、事実を調べる中で必要に応じてそれらを参照して使おうということになった。また、保護者が消防署に勤めている子どもがおり、その子が消防士である保護者(父親)の生活の様子を紹介する場面があつたが、そのままでは学習にならないということになり、繰り返し子どもたちが自由に事実を確かめることの出来る校内について、学校探検をすることになった(②)。

子どもたちは学校探検の結果や、さらに自分達が校内で見つけたことを、学校の見取り図にシールを貼り、それをもとに③を実施した。子どもたちは、校内に設置してある消火器に番号がついていることを見つれたり、その番号の法則性や番号をつける必然性に気付いて行った。また、消火栓の上にある非常ボタンや、消火栓の中に消火用のホースが入っていることを確かめたりする中で、非常ボタンを押しても直接消防署には連絡が行かず、通報は直接電話ですることなどを教頭先生に確認して「お知らせ」で発表する子も出てきた。子どもたちが、最も強い

興味を示したのは防火扉であったため、実際にそれを動かして、「仕組み」や役割について考えて確認した(④)。

その後も、子どもたちは、校地の外で見つけた消防に関係のありそうなもの、例えばいつも遊んでいる公園周辺の道路にある消火栓、防火水槽、町内に設置してある消火器等について、授業や「お知らせ」で発表した(⑤)。そのような中、消防署が119番通報を受けたときに、どのように消火活動をするかという仕組みについて調べるうちに、消防団の存在に気づくこととなった(⑥)。そこで、消防団をよく知っている祖父に聞いて、その仕組み等を調べ、それを授業や「お知らせ」で発表する子どもが現れる中、子どもたちから消防団について多くの疑問が出され、それを解決すべく調べて、それを劇にすることになった(⑦)。劇化は国語での学習(「ちいちゃんのかげおくり」)を通して、関係ある詳細な事実が具体的に考えられることが子どもたちには分かっていたので、そのことが強く影響していたと考えられる。

消防団の仕事の劇化に際しては、消防団が出勤して消火活動をするまでの具体的な動きを知る必要があるが、実際に劇を作ろうとすると、分からない点がとても多いことに気づき、その疑問を整理して自分達が何を知りたいのかについて話し合った(⑧)。そのことを通して、子どもたちには、迫りたい「問い」に気付かせたかったが、子どもたちから「問い」が出ることはなかった。この話し合いを受けて、質問を消防団と消防署に送り、当日の消防団の見学を迎えた(⑨)。消防団のおじさんが答えてくれたことをもとに、劇を改めて修正し(⑩)、授業で劇を実際に行き、消防団の人の気持ちを考える学習を行った(⑪)。

(3) 授業記録に見られる子どもの姿

子どもたちが、指導の結果、どのように育ったかは、最終時⑪の子どもたちの事実を手がかりに考える必要がある。なぜなら本時まで筆者は、「思考の足場」を捉えつつ、子どもたちに「思考の足場」が築かれることで自律的な学習を行う子どもを育て、そのような子どもが相互に助け合って授業(学習)を作ることが出来るように、働きかけてきたからである。それは、「はじめに」で述べたように、指導要領の目指す子ども像であるとともに、社会科が目標とするものであるから、本時までの指導の評価に

関わるものでもある。

授業記録(巻末【授業記録】参照)を通覧すると、本時は次の4分節から成っていることが分かる。以下、分節ごとに子どもたちの作った学習について見てみよう。

第1分節 1日直～23T

第2分節 24日直～53日直

第3分節 54日直～117TY女

第4分節 118T～142日直

a) 第1分節

この分節は、学級の子どもの学習のために、自分はどうに関わるか、また、どんなふうに参加するかを考え、それを発表する場面である。子どもたちは、友だちとのつながりの中で、自分の考えを作ろうとしており、また学級の友だちと一緒にする学習を意識して授業にのぞんでいる(9YK女, 11KH女, 15FY女)。

b) 第2分節

この分節は、消防団の仕事の劇を行いながら、自分達が調べてきたことを確認している場面である。49日直が、「劇はどうだったですか?」と聞くと、50ES女が「一応、先生たちに、あの聞いた方がいいんじゃないでしょうか?」と提案の上、学級の子どもたちが賛成し、参観していた校長先生および1年生の時の担任であったM先生に、劇について意見を求めている。自分達が本気で取り組んだ劇が、第三者にどのように見えたのか、どのように感じられたのかを、子どもたちは素朴に知りたいと思ったのであろう。

c) 第3分節

第3分節は、子どもたちが消防団の人の気持ちを考えている場面である。ここでは、子どもたち一人ひとりが、それぞれの角度において「見方・考え方」を働かせ、消防団の人の気持ちを考えている。その働かせ方の詳細を見るため、子どもたちが、どのように異なる角度から、消防団の人の気持ちを考えているかを検討してみる。

57OT男

…消防士と消防団の人の仕事の違いとお互いの関係。

61FY女

…人命を守るという消防団と消防士の共通した役

割。

63SS女・74IR男

…「少しでも早く」という時間の視点。

69MH女・72SHa女

…消防団の人の正直な気持ち。

82MM女

…消防団の人が置かれている状況とその時の気持ち。

84MS男

…「こわい」という気持ちと役目を果たさなくてはという矛盾する気持ち。

92TK女

…出動の時に備えている日常の大切さ。

97ES女・103OT男

…消防団の仕事と自分の仕事の間で感じること。

114TY女。

…早く現場に向かいたいという気持ちと、安全に現場へ向かわなくてはという矛盾する気持ち。

以上から子どもたちは、消防団の人の気持ちを様々な角度から想像していることが了解される。このことは、友だちと「少し似ていて」や「同じで」と言っていることから分かるように、友だちと自分の意見の違いを意識しながら、異なる角度から自分の考えを述べようとしている授業記録から裏付けられる。

d) 第4分節

第4分節は、「ここまで学習してきて、どんなことを思いましたか？」という教師の発問を出発点としてなされた学習であり、それに4人の子どもたち（120SH女、125IR男、128FY女、136SS女）が答え、また1人の子ども（133TY男）が答えようとした。

(4) 子どもたちがハッとさせられた発言

以上の分節において、子どもたちがハッとさせられ、その場の雰囲気を変えた発言がいくつかある。それはまず93TK女の「いつ火事が起きるかわかんないから、一旦心を休ませ」という発言。そしてさらにそれを発展させることで、子どもたちをハッとさせた、115TY女の「安全運転で行くために心がけている」という発言である。

この発言はともに、子どもたちに十分受け止められないまま、123IR男の「あらためて消防団さんとか、消防士の人にありがとうって、思いま

した」という発言にもつながり、ここでも子どもたちはハッとさせられている。

(5) 本時の評価

劇化されていない部分について問題にしたのは89Tであり、その発問によって子どもたちをハッとさせる発言93TK女が出るとともに、同様にして115TY女、123IR男の発言が続いている。93TK女は、消防団のおじさんの立場に立って、普段の生活では「一旦心を休ませ」ているのが良いのではないかと述べているが、これは消防団のおじさんが消火活動という緊急事態においては、危険と向き合っているため、普段の生活で「一旦心を休ませ」ていることが重要だという意味である。消防団の消火活動という緊急事態と、普段の生活で「一旦心を休ませ」ることとは、相対立した矛盾するものである。

また、115TY女は、消防団が「火事現場に行っている」場面に言及し、「安全運転」である必要があるから、「安全運転のため」の「訓練」の重要性について発言している。当該の訓練は、劇には表されていないが、消防団が安全に到着することは重要である一方、普段は仕事をしている消防団員がどのようにしてそのような訓練をすることは時間の制約があって難しいので、この発言もまた、消防団のおじさんの立場に立ち、おじさんの仕事の中にある矛盾について言及したものである。

このように考えると、123IR男が口にした感謝は、このような矛盾を正面から受け止め、矛盾を抱えながら消火活動に従事する消防団のおじさんの仕事に気付いた結果のものであるから、「ありがとうって、思いました」という言葉が、IR男の口から表出されるのは、自然なことであろう。

以上のように考えると、子どもたちは89Tのような教師の手助けに支えられ、分節を超えて消防団のおじさんの仕事に迫っているといつてよいだろう。

5. 今後の課題

本実践では「思考の足場」が築かれ、疑問を見つけてそれを解決する学習を自律的に行うことが出来るようになった子どもを見出すことが出来た。本時の分析にあったように、消防団の人の気持ちを考える際に、異なる角度から考えを述べる事が出来ているのは、それぞれの子どもの「思考の足場」があり、自分が抱いた疑問を解決するための学習が、それぞれの子どものにおいて作られているからである。

一方、子どもたちにおいては「思考の足場」があるはずだが、授業記録の第2分節では、消防団の人の気持ちについては、自分達が作って演じた消防団の消火活動の時の気持ちのみに終始し、消防団の人たちの普段の生活について考えが及ぶことはなかった。そのため、教師は89Tのように出て、劇化されていない時間に焦点を当てようとしたのである。すると子どもたちは、93TK女、115TY女のように、消防団のおじさんの仕事の矛盾に迫り、それを誠実に受けた123IR男の口から、消防団のおじさんや消防士のおじさんに対する感謝の言葉が、自然と漏れ出したのである。このことは、筆者が最初にあげた「③子どもを惹き付ける力をもった教材（「人」と出会わせる）」が本時において実を結んだことを示唆している。

けれども、もう少し早く、仕事の矛盾に子どもたちが迫っていたならば、本時の劇ではその矛盾が表現され、本時はその矛盾をどう考えるかと言う深い学習になった可能性があるということもまた考えなければならない問題である。

この学級の子どもたちの様子は、10月の初旬から観察し、日に日に子どもたちが伸びていく様子や、子どもたちが助け合って学習を作る様子を、比較的早い時期に確認することができた。子どもたちの成長は、観察を始めてから約1ヶ月もすると、十分に感じられるほどであった。これは、特に、子どもたちが、日直として学習や学校生活を切り盛りし、友だちのためにはたらくことの楽しさを味わいながら、学校生活全体を自分達のものとしていったからである。なぜなら、1月に見た子どもたちによる日直の学習に対する積極性は、例えば教師が予め考えていた学習テーマを、自分達がその日に取り組める学習テーマに変更させるほどであったからである。

指導の効果が表れるのに1ヶ月程度しか要しないことが分かったのは、大きな収穫であった。国立大学附属小という特殊な環境下にある小学校ではなく、様々な問題を抱える一般の公立小学校において、1ヶ月で子どもたちが大きく成長する指導が可能であり、成長した子どもたちがこんなにも楽しく学習を作り、これほどまでに助け合いながら学習（授業）を作っていく姿は、今後初等教育のあり方を考える上で、一つの意義ある事実となり得ると考えられる。

【授業記録】

2023年2月14日（火）

小山市立旭小学校・3年1組・渡辺知世
小3社会「くらしを守る」【11 / 11時間】

1T 1回ごあいさつしましょう。

2日直 (FN男) きりつ。れい。着席。<各自、ノートにテーマとめあてを書いている。>

3T 鉛筆がどんどん走っていていいですね。

4KH女 <ES女が、後ろにノートを取りに行こうとするがためらう。>先生、多くなっちゃうよ。こっちこっち。<ES女が、後ろにノートを取りに行き、参観している教師にロッカーからノートをとってもらおう。> (T:やばいやばい。ふふふ。)

5日直 (FR女) 【4分】 みなさん、テーマとめあては書けましたか。(TY男:いいえ。) <それぞれが、ノートにテーマとめあてを書いている。> 今日のテーマは、消防団の役の人がやっていることや知っていることをよく聞いたり見たりして、消防団の人の気持ちを考えようです。みなさん、このテーマでいいですか。(C:はい。) 自分のめあてが発表できる人はいますか。手をあげてください。

6日直 (FN男) YK女さん。

7YK女 はい。わたしの今日のめあては、前回、先生に注意されたことをもっと生かそうです。

8T どこで生かす？

9YK女 ん〜と、たとえば、大きい声を出したりとか、あの〜、行動をすばやくとったりとか、あの〜、すばやく行動できるようにとか大きい声を、はきはき言えたりとか、大きい声でみんなに伝わるようにしたいです。(T:消防団の人の役の時かな?) <うなずく>

10日直 (FN男) 他にいますか。KH女さん。

11KH女 はい。消防団役は主役なので、消防士は目立とうとせず、すぐに終わらせるようにしたいです。

12日直 (FN男) 他にいますか。FY女さん。

13FY女 はい。今回、消防団役だから、ナレーションが言ったとおりに、役をやる予定です。

14T どんなふう。ナレーションが言った通りっていうのは、もうちょっと詳しく言える？

15FY女 ナレーションが言った通りと違うと、みんなが困ってしまうので、言った時のようにみ

- んなが思うのを再現してやりたいです。
- 16日直 先生のお話。先生のお話です。先生お願いします。
- 17T はい。手を挙げてた人ごめんね。今ね、お友だちのめあてを聞いて、最近、めあてを褒めることが多かったのですが、今日、ちょっと、みんなにつっこみを入れてもいいですか。(C:ふふふ)ふふふ。みんな、今日のテーマは何?(C:気持ちを考えてよう)そうそうそう。劇の所はもう出来るようになったんだよね。だから、さらにその先に今日はいこうとしているでしょ。したら、めあて、これだけでいいかな?もうちょっと、付け足せないかな?付け足せる人いるかな。ちょっと聞いてもいいかな。これは、もちろん大事なんだけど、もっと先まで今日きたいよね。MH男さん。
- 18MH男 気持ちを考えて、もし、そのようなことが本当に起こった時の消防団の人の気持ちを考えれば、また新しい発見があるかもしれないので、そこをもっと考えたりしようの方がいいのではないかと思いました。
- 19T もう一人聞こうかな。SS女さん。
- 20SS女 はい。あたしは、みんなで協力しないと、この疑問は解決しないと思うので、みんなで協力して気持ちを考えようが、いいと思いました。
- 21T はい、ありがとうございます。今、SS女さんが言ったけど、みんなで協力しないってね、言っていました。今までとは、ちょっと違うんだよね、今回の疑問はね。どう違うんだっけ?
- 22C ただ調べていいことじゃない。
- 23T そうだよ。今では調べて、ただ聞いてきたら分かったんだけど、今日はちょっとそういうわけにはいかないぞっていうことなんだよね。なので、頑張ってください。で、今日はね、ここの学習最後にしようと思ってます。はい、じゃあ日直さん、お返します。
- 24日直 (FN男) 消防団の人。
- 25T 元気ないですか?(C:へへへ) <C, 笑う> 緊張してきたんじゃない?今日の日直さんは当たりだね。<C, 笑う>
- 26日直 (FR女) 【10分】消防団の人は準備が出来ましたか?
- 27C TY男さん。TY男さん! <TY男, 前へ出てくる>
- 28日直 準備をして下さい。
- 29C TY男さん、それぞれ。<TY男, サメのぬいぐるみをもらう>
- 30T <ナレーターのST男, 出てくる>すごい、紙がある。(C:えええ)ほかの人、準備しなくていいの?どういう設定だった?(C:大火事と、逃げ遅れあり、消防団が先…)消防団の人に先に連絡が行くんだね。(C:逃げ遅れあり。逃げ遅れた人) 逃げ遅れあり
- 31日直 (FR女) 始めて下さい。
- 32住民役2人 (OT男, UK男) あ、煙が見える。消防団に伝えなくちゃ。<住民役2人, 消防団のところに走っていく>消防団さん、K二丁目から火が発生しています。集合してください。
- 33消防団 (MS男) はい。消防団のみなさんへ。K二丁目から火事があったので、集まって下さい。<消防団役, 教室の後ろに置いてある防火服を持って来て, 教室のまんなかでそれを着る>
- 34ナレーター (ST男) この時に、まず、現場に着いたら着替えます。<消防団役, 着替える>
- 35消防団役 (みんな) ジャンパーよし。帽子よし。ジャンパーよし! 帽子よし! ジャンパーよし! 帽子よし!
- 36消防団役 (MS男) FY女さんと、YK女さんは、やじ馬整理をお願いします。(はい。はい) FY女さんと、MH女さんと、僕は、消火栓の所に行き、消火します。(はい) <FY女, YK女, やじ馬の交通整理を始める>
- 37ナレーター (ST男) この時に、やじ馬が火の、火に、やじうまが、あの、危険にならないように、やじ馬が入らないように、消防団の人がやじ馬を止めます。<FY女・YK女: やじうま整理をする。MS男・MH女・MY男: 消火活動をする。>
- 38消防士役 (OT男・KH女) ウーン、カンカンカン。こちら消防署の者です。私たちに従ってください。まず、私たちが救出をするので、そのまま消火を続けて下さい。(はい)
- 39消防士役 (OT男) こちら消防署のものです。けがはありますか?(TY男: あります) 歩けますか?(TY男: 歩けません) <消防士役の2人が、負傷しているTY男を連れて行き、戻ってくる>ホースを渡して下さい。(MS男: はい) 向かい合わせにならないように、左側から消火

- を続けて下さい。(MS男：はい)
- 40 ナレーター (ST男) この時に、消防団さんが水を出していたそのホースを消防士に渡して、消防団の人は違う消火栓から水を出して効率よく火が消えるように水を出します。＜消防団役は消防士役の子にホースを渡し、別な消火栓を開けてそこから水をかける＞その時に、火が消えたら、消防士の人が消火終わりと言います。
- 41 消防士役 消火活動終わり！（はい）消防団の人は、瓦礫の片づけをして下さい。(はい)
- 42 ナレーター (ST男) 【15分】その時に、消防団が瓦礫の片づけをする時には、消防署の人は、また次の連絡があるかもしれないので、その連絡がまたあるかもしれないので、消防士の人は消防署に帰ってしまいます。
- 43 消防団役(MS男) 瓦礫の片づけ終わり！（はい）やじ馬整理終わり！（はい）＜やじ馬整理係、もとの位置に戻る＞MY男さんは、火が残っているかもしれないので、火事があった現場に居て下さい。ほかの人達は、火事があった時に、いつでも消せるように消火栓の所に行ってください。(はい！)
- 44 消防団役(MY男) 火はありません。(はい)
- 45 ナレーター (ST男) MY男さんが、火はありませんと言ったら、次に、もう、火がもう1回燃えるということはないので、消火栓と、つないでいたホースを抜いて、消防団が乗ってきたポンプ車にホースを片づけます。
- 46 消防団役の5人 せえの。＜消火栓からホースを抜き、ホースを折り畳み手で持つ＞せえの。＜ホースを2人で持ってポンプ車に積む。別の消防団の2人、ホースをポンプ車に積む＞せえの。
- 47 ナレーター (ST男) ホースが片づけ終わったら、次はもう1回、やじ馬が、火事の、消してあるけど、そこで転んだりしたら大変なので、もう1回、火事の現場を、黄色い立ち入り禁止のテープを張って、やじ馬が来ないようにします。＜消防団役の5人、火事の現場に黄色いテープを張る＞そしたら、黄色いテープが張り終わったら、消防団が乗ってきたポンプ車で、消防団の集まる所に帰ります。＜消防団役の5人、帰る＞これで劇は終わりです。＜参観者とC、拍手＞
- 48T はい、じゃあ、いいかな。消防団の役の人達、脱いでいいですか？TY男さんも戻って下さい。＜消防団役の5人、ジャンパーを脱いで自分の席に戻る。ほかの役の子どもも自分の席に戻る＞
- 49 日直 (FN男) 劇はどうだったですか？(C：うん)手を挙げて良いですよ。＜C、笑う＞ES女さん。
- 50ES女 はい。えっと、一応、先生たちに、あの、聞いてみた方がいいんじゃないでしょうか？(C：ん？ん？ん？大きい声で言ってください)一応、先生達にも聞いてみた方がいいんじゃないですか？(C：ああ)日直さん、どうですか？＜C、笑う＞
- 51 日直 (FN男, FR女) じゃあ、そうします。(C：誰指されるか分かんないよ。誰指していいか分かんない。早く！)校長先生どうですか？＜C、笑う＞(C：やっぱり)
- 52 校長 【20分】今日見ての感想ってことで良いですか？はい、あのう、まず驚いたのは、みんながものすごく真剣にやっている、ふざけていない。素晴らしい授業に向かって、って言うのかな、すごいなってのは、劇だけじゃなくて。それから、消防団、消防団の人達はね、いろんな所から来たね。消防団がいろんな所から来るんだとかね、消防士、消防署かな、消防署の人は指示をしてくれたりとかね、役割が違うんだなって分かるように、説明してくれましたね。あとは緊急事態だね。火事ってね、そういう時は、本当に命がけでやってくれてるんだなって、なんかすごく感動しました。本当にやってくれてるんだなって。消防署の格好をしてる訳じゃないし、火も見えないけど、すごくそんなことが伝わりました。多分それをもとにね、色々なことを考えられるかな、勉強出来るなって、期待が持てました。以上です。＜C、拍手＞
- 53 日直 (FR女) ありがとうございます。(C：M先生、M先生、やばい、目線がやばい)M先生どうですか？＜C、笑う＞
- 54M先生 ええと、ええと、ただ火を消して命を守る仕事をしているってのは、ええと先生も分かってたんですけど、今の劇を見て、消防団の人と、消防士の人の、動きが違うっていうのが、はっきり分かって、先生も勉強になりました。

このあと、消防団の気持ち、みんないっぱい考えられるんじゃないかなって、すごく楽しみにしています。ありがとうございます。<C、拍手>

55日直 (FR女) ありがとうございます。これで、気持ちが考えられた人はいますか？

56T はい、では行きましょうか。そっち。

57日直 (FN男) OT男さん。

58OT男 はい。僕は消防団の人が、消防士の人が救出に向かっている時に、消防団の人は、消防士さん大丈夫かなって思ってるんじゃないかなって思いました。みなさん、どうですか？

59T 理由もあるかな？言えるかな？

60OT男 どうしてそう思ったかという、ええと、消防士さんは火の中で救出に向かっているの、命を落とす可能性があるから、消防団の人にも心配してるんじゃないかなと思ったからです。みなさん、どうですか？

61日直 (FR女) FY女さん。

62FY女 はい。あの私は、一人でも多く、あの、お亡くなりの人を減らすと思ってるんだと思います。どうしてかという、人が亡くなることは悲しい事だし、人が亡くなったら、色々な友だちとか家族とかが悲しむからです。みなさんどうですか？

63日直 (FR女) SS女さん。

64SS女 はい。早く消火しないと、思ってるんじゃないかと思えます。どうしてかという、早く、早く消火出来なかったら、たくさん人が死んじゃうかもしれないし、ほかの民家にも火が燃え移って、大火事になってしまうからです。みなさん、どうですか？

65日直 (FR女) MH男さん。

66MH男 声の大きさに、やっぱり、自分で何回もやったことがあったとしても、やっぱり緊張はしてるんじゃないかなと思いました。

67T 火を消える時ってことかな？<MH男、頷く>

68MH男 【25分】あ、理由は、やっぱり、場合によっては、違う時の、違うかもしれない、例えば、もともとが分かんなくて、そこを探すからかもしれないし、もう分かってるからすぐ消せるかというの分かんないので、だから緊張してるんじゃないかと思いました。

69日直 (FN男) MH女さん。

70MH女 はい。私は、消してる時に、怖いんじゃないかなと、思っているんじゃないかなと思えました。訳は、いつ何が起きてるか分かんないから、もしかしたらの時を思って怖いと思ってるんじゃないかなと思えました。みなさんどうですか？

71SkH女 私もMH女 (MH女) さんと同じです。

72日直 (FR女) SkH女さん

73SkH女 はい、私もMH女さんと同じで、消防団さんは怖いと思ってるんじゃないかなと思えました。どうしてかという、火を消す仕事をしてたとしても、火だから自分が死んでしまうかもしれないから、怖いんじゃないかなと思えました。みなさんどうですか？

74日直 (FN男) IR男さん。

75IR男 はい。僕は急がないと、思っていると思います。理由は、急がないと、逃げ遅れた人も死んでしまうから、急がないといけないと思えました。みなさんどうですか？

76日直 (FR女) KH女さん。

77KH女 私はOT男さんと同じで、消防士さんの事が心配じゃないのかなと思えました。どうしてかという、みなさんは知らないと思いますが、知らない人がいるので言いますが、私のお父さんは消防士なんです、お父さんも消防団が死ぬ人が多いって、あの、パパの仕事場の人も死んじゃった人もいって言ったので、心配じゃないのかなあと思えました。

78日直 (FR女) ほかにいますか？

79T 最後だからね、まだ言っていない人いっぱいいるね。うん。(C:同じ人ばかり)

80日直 (FR女) YY男さん

81YY男 僕は、FY女さんと同じで、一人でも助けるという気持ちだと思います。どうしてかという、もし消防士さんが、ほかのことをやってて、その中に、ええと、逃げ遅れた人がいて、そこでも死んじゃったら悲しいと思うから、一人でも助けるという気持ちだと思います。(C:みなさんどうですか、みなさんどうですか) みなさんどうですか？

82日直 (FR女) ME女さん。

83ME女 【30分】はい。私はMH男さんと一緒です。緊張してるんじゃないかなと思えました。理由、理由は、自分も死んでしまうかもしれな

いし、死んでしまうかもしれないし、その火事の逃げ遅れた人も、死んでしまうかもしれないので、緊張しちゃうんじゃないかなと思いました。みなさん、どうですか。

84日直 (FN男) MS男さん。

85MS男 はい、僕は、SS女さんと少し似ていて、怖くても消すぞとっていると思いました。どうしてかというと、消防団の人が、一人でも怖くて消せなかったら、火が消えないから、あの、みんな早く消すぞという気持ちでやらないといけないと、思ったからです。

86T うん。

87日直 (FN男) あと一人にします。(FR女) SH女さん。

88SH女 はい。私は少し、MH女さんやSkH女さんに似ていますが、気をつけなきゃと思っています。理由は、消防団の人は火事以外にも出勤するので、いろんな事に気をつけているんじゃないかなと思ったからです。みなさん、どうですか。

89T じゃあ、先生からも、ちょっと聞いてもいいですか、みんなに。今、みんなから出てきたのは、多分、消火活動してる時とか、災害に駆けつけてる時なんだと思うんです。じゃあ、そうじゃない、普段は何してるんだっけ？

90C 自営業とか、サラリーマン。

91T そうだね、サラリーマンでしょ。普段はどんなこと思ってるのかなあ？

92日直 (FR女) TK女さん。

93TK女 はい。火事が起きても、悪くはないから、いつ火事が起きるかわかんないから、一旦心を休ませて、火事がいつ起きても分からないから、あの、すぐに出動したり、あわてないように、気をつけてるんだと思います。みなさんどうですか。

94T 普段から気をつけてるっていうの？一旦、心を休めてって、どういうこと？

95TK女 まずは火事が起きても、慌てても良いことはないと思うので、一旦、心を休ましてからの方がいいと思うからです。みなさんどうですか。

96T 落ち着いているってこと？普段は。どんどん聞いて。

97日直 (FR女) ES女さん。

98ES女 はい。えっと、もしも、自営業とか仕事やっていたときに、火事が起きたら、ええと、火事が起きたら、あのう、その仕事を1回区切って、火事の消火に向かわなければならぬか、みたいなのところに、なっているんだと思います。

99T 今の仕事、やめなきゃいけないかなって思ってる？みんな分かった？どう？(C:ちょっと) ちょっとは分かった？

100ES女 分からなくなった。

101T いいよ。

102ES女 分からなくなってしまったので、私の意見を言える人はいますか？(C:一人いる)(FR女:OT男さん。)

103OT男 【35分】はい。ちょっと、多分なんですけど、あの、消防団の人は、いつ火が起きても対応しなきゃいけないから、それで会社やめなくちゃいけないかなっていう、怖さを感じているっていうこと。消防団をやっている影響で、会社とかをやめなきゃいけない怖さもあるんじゃないかなっていうのを、ES女さんは伝えたかったんじゃないかなと、思いました。ES女さんどうですか？

104ES女 えっと、その意見で、その意見です。

105T そういうことね、うん、みんな分かった？(C:うん) そっか、自分のお仕事に影響があるかもしれないってことか。うん。あと一人くらい聞けるかな。まだ言っていない人いるでしょ。今日、最後だからさ。

106日直 (FN男) まだ言っていない人で、言える人はいますか？

107T どんなこと、考えてるんだらうね。

108日直 誰々さんどうですかって言っていいの？

109T 良いよ。ナレーションやってくれたST男君とかどうかな？(C:確かに。確かに)

110日直 (FN男) ST男さんどうですか？

111ST男 僕は、あの、消防団やってる人も、サラリーマンとかがいるって言ってたので、サラリーマンとかは、リモート会議とか、色々大切なことがあるので、そういうリモート会議とかの時には、火事の、あ、大火事のお知らせで、出勤して下さいとか、それで、えーって思ってるんじゃないかって思ってます。

112T 今日まだ言っていない人いるんだけど、どこでもいいよ。普段の時じゃなくて、消火活動の

ところでもいいよ。言っていないお友だちで、もう時間がきちゃうから。(C:日直さんとか) そうそう、今日、日直さんも言っていないね。どうですか。今日最後ですから。<TY男、周りを見渡す>TY女ちゃんだって、こうやってるよ。(C:頑張り、TY女ちゃん)

113C 渡辺先生。

114T 先生が言っているの？言ってもいいけど、先生が言ったら、なんか、先生の考えに染まったり、先生の言う通りだってならない？(C:ならない、ならない)本当？(C:絶対なる、絶対なる)なるでしょう。先生が言ったら、これがいいのかなって、なっちゃうでしょ。TY女ちゃんいいよ、TY女ちゃんどうぞ。

115TY女 はい。(T:どこでも良いよ)私は、車に乗って、火事現場に行ってる場所なんですけれど、安全運転で行くために心がけているんじゃないかなと思いました。

116T どうしてかな？

117TY女 どうしてかという、安全運転ではないと、火事以外の事故と、ほかの原因があり、火事どころではなくなってしまうし、そのため、訓練でも、安全運転のために、訓練をしているからです。みなさんどうですか。

118T 【40分】終わりかな。そしたら、そろそろ時間なんですけど、いいですか。今日ね最後なので、いろいろね、みんなから出てきて、消防団の人の気持ち、よく考えてるなって思ったんです。よく頑張ったなって思うんだけど、最後に一つ聞いてもいいですか？最後に。(C:どうせ最後だから)どうせ最後だからね。はいこれでよくできました終わり、というわけにはいきません。<C, 笑う>ここまで、火事のこのくらしを守るの学習をしました。今みんなは、ここまで学習してきて、どんなことを思いますか？ちょっと言える人、聞いてもいいかな。日直さん、指してくれる。うん、これは2回目でも良いと思うよ。どんなこと、思いますか？

119日直 (FN男) SH女さん。

120SH女 私は今までの学習で消防団さんの役の人が、いろいろ調べて、今日劇をやって完璧にできたので、私は消防団のことを詳しくなれました。

121T だと思うんだね。はい、もうちょっと聞いてみよう。

122日直 (FN男) IR男さん。

123IR男 あらためて消防団さんとか、消防士の人のありがとうって、思いました。

124T 理由も言える？

125IR男 理由は、消防団さんとか、消防士の人がいないと、災害とかになったときに、誰も駆けつける人がいなくなってしまうからです。

126T なるほどね。もうちょっと聞こうかな。

127日直 (FR女) FY女さん。

128FY女 はい。私はこれまで勉強してきて、あの、消防団は、あの、本当に色々なことをみんな協力してやっているのだなあと思いました。

129T あと一人聞けるよ。

130日直 (FR女) MH男さんどうですか。(C:挙げてない人いっぱいいるよ。挙げてない人、めっちゃいるよ)TY男さんどうですか？<C, 笑う>(C:隠れちゃった)

131T 言える？恥ずかしいんじゃない？人いっぱいいるし。緊張しちゃうんじゃない。<複数の子がTY男に発言を促すような手振りをする>日直さん、変えてもいいよ。

132日直 (FR女) じゃあ、言えませんか？(C:逃げた本人、TY男さん)TY男さん、どうですか？(C:ははははは)TY男さん。

133TY男 <TY男、立ち上がる>はい。(C:どう思う。あらためてどう思う?)ええ、あっ、えええっと。助けられる側だったけど…<教頭、何度も頷く。TY男、座る>

134T 助けられる側だったけど、何が言いたかったんだろ。(C:助けられる側だけど、大変だった?大変そう?)何が大変そうなの?(C:救出するの)救出するのが?そういうことかな?

135TY男 いや。<TY男:首を横にふる>

136T じゃあ、頑張ってノートに書いてね。<TY男、頷く>はい。じゃあ、あと一人だけ聞いて、あとはノートに書いてもらいましょう。手を挙げてる人でいいよ。

137日直 (FR女) SS女さん。

138SS女 はい。私はこの学習をして、消防団があることを初めて知りました。初めて知ったので、消防団のことも知れたし、消防士さんが色々なことをしてるのが分かりました。

- 139T 【45分】この勉強をして、初めて消防団のことを知った人いるのかな？（C：初めて知った）<ほとんどの子どもが挙手をする>そうなんだな、そっか。（C：あの車庫見るまで消防団知らなかった）そうだねよ。そうだね。はい、分かりました。はい、ふりかえりをノートに書いてもらって下さい。はい。
- 140日直（FN男）ふりかえりを書いて下さい。
- 141T 今日、言えなかった人は、そこに書けるようにね。しっかりね。NR男君も、今日始めて復帰したから、みんなのを聞いてどうだったかなっていうのを書いてね。お名前入れて下さいね。ふりかえり。（C：日付も入れとこ）そうです。日付とお名前よろしく願います。<C、ノートにふりかえりを書く>はい日直さん、一旦号令かけて終わりにしましょうか。
- 142日直 起立。
- 143T はい、じゃあ日直さんにね、号令かけてもらいますから、続きね、書いてる人まだいると思うので、それを書いて下さい。
- 144日直 【48分25秒】礼<C、礼をする>着席。

注

- (1) 重松鷹泰「まえがき」（宮崎富士也『ひとりを見なおす理科の授業』明治図書、1976）pp.1-2。
- (2) 溜池善裕「社会科教育における重松鷹泰の授業分析の意義—『子どもがする授業』の発見と追究に着目して」（『社会科教育研究』no.121, pp.28-39）。

（付記）本論文は全文を渡辺が執筆し、細部にわたる修正等と5については溜池が執筆して成った。度々の参観にもかかわらず快く受け入れて下さった、渡辺知世先生、小山市立旭小の教職員の皆様にはあらためて感謝したい。

本研究はJSPS 科研費 20K02727 の助成を受けたものです。

2023年3月31日 受理

A study on raising children who have
“scaffolding for thought” and cooperate
with each other to learn:
3rd grade in elementary school, with clues
from social studies "the work of public institutions
to protect people's livelihoods"

Yoshihiro TAMEIKE, Tomoyo WATANABE